

Gpress

せたがや

GpressのGは愛称「げんき」のGです。

第19号

2014年
3月20日発行

「ジープレスせたがや」
業務受託 社会福祉法人 嬉泉

発達障害のある人の地域での自立を考える

講演会開催

発達障害のある人の ライフステージからみた育ちと支援

昨年12月7日成城ホールにて、第1部：山梨県立こころの発達総合支援センター所長本田秀夫氏による講演、第2部：本田氏と石井哲夫（社会福祉法人嬉泉常務理事）との対談を行いました。（第1部講演の内容については中面でご紹介しています。）

第2部対談より



石井哲夫
（社会福祉法人嬉泉常務理事）

石井「参加者を代表してお尋ねしたいのですが、自閉症をはじめとする発達障害のある人たちの地域での自立をどのように考えればいいでしょうか。」

本田氏「たった一人で生きていくのが自立ではないと思うんです。彼らは自閉症の特性が残った状態で大人になるわけですから、彼らが頼れる人をもっと配置し、彼らが依って立てる生活の場をもっと必要です。自立について、一人で生きていくために個人の側にすべての責任や試練を与えなきゃいけないという考え方は間違っていると思います。」

石井「本当に社会の風潮を変える必要があると痛感しますね。」



本田秀夫氏
（山梨県立こころの発達総合支援センター所長）

世田谷区発達障害 相談・療育センター って どんどころ？

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様に、発達障害について理解してもらうための活動をしています。

まずは
お電話
ください

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方を対象としています。

03-5727-2236（「げんき」相談専用番号）

発達障害 Q & A

よく寄せられるご質問から

Q3 「二次障害」という言葉をよく聞くのですが、大人になると出てくるものでしょうか？ 子どものうちは大丈夫ですか？ 現在3歳の男児です。

A3 二次障害は、子どものうちからも現れます。発達障害による認知の障害や適応のしにくさのために、二次的にいろいろな問題が現れることを二次障害といえます。小さいお子さんに多いのは自己評価の低下で、劣等感や不安の強さ、自信のなさにつながります。環境を特性に合わせ整えてあげること、お子さんの得意な面を利用して学びやすくすることが大切です。

また、お子さん自身が自己評価を高め、自信や挑戦する意欲につながるよう日常生活の中で丁寧に関わることも大切です。例えば、この年頃のお子さんは、お散歩の時に道路のはじの縁石の上を歩きたがります。その時に「危ないからやめなさい」では、自信や挑戦につながりません。手をちよつと持つてあげて安全に配慮し、「上手、上手」「まっすぐ歩けたね」というように完璧でなくてもうんと褒めてあげると、身体のバランスをとる力が身についていきます。お子さんの様子をよくみて、自己肯定感が育つ関わりをしてあげてください。

幼児期の育ちがその後につながることを意識しながら、二次障害についても十分に理解しておく必要があります。

回答者

世田谷区発達障害相談・療育センター診療所長
山崎晃資（医師）

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

開所日時

月～土曜日（祝日及び年末年始を除く）
午前9時～午後6時

利用方法

利用は予約制です。利用を希望される方は、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」へお電話にてお申し込みください。

所在地・連絡先

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3 階
TEL 03-5727-2235（代表）
03-5727-2236（相談専用）
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

業務受託：社会福祉法人 嬉泉

〒156-0055 世田谷区船橋 1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>

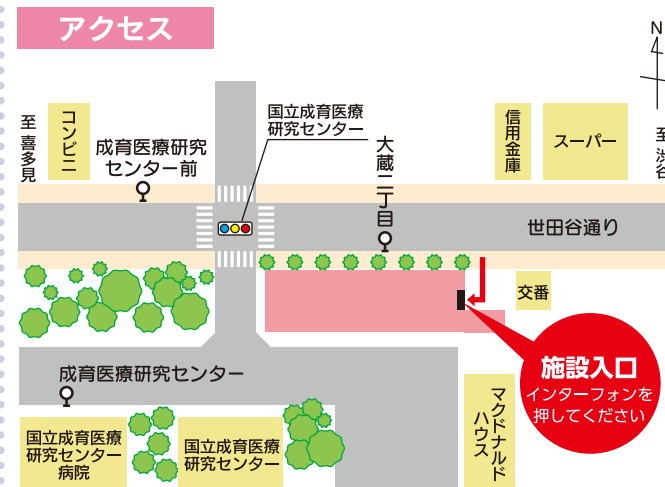
編集後記

本田秀夫先生の講演会には週末の夜の開催にもかかわらず多くの方々にご参加いただきました。

本田秀夫先生の20年以上にわたる臨床のご経験から、幼児期から成人期までのライフステージを通した具体的な話をいただき、ご参加の方より「理解しやすかった」「勉強になった」というご感想を多くいただきました。

「げんき」利用者の大半は幼児・学童ですが、地域での自立のために将来を見据えた関わり大切さをあらためて考える貴重な機会となりました。

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

東急バス・小田急バス

〔渋24〕 成城学園前駅 ↔ 渋谷駅

東急バス

〔都立01〕 成城学園前駅 ↔ 都立大学駅北口

〔等12〕 成城学園前駅 ↔ 等々力操車所

〔用06〕 成城学園前駅 ↔ 用賀駅

小田急バス

〔渋26〕 調布駅南口 ↔ 渋谷駅

東急コーチ

〔玉31・32〕

二子玉川駅 ↔ 成育医療研究センター

渋谷方面行きのバスにご乗車の場合は「成育医療研究センター前」で下車。東急コーチ、成城学園前駅行き、調布駅南口行き方面のバスにご乗車の場合は「大蔵二丁目」で下車。

※専用駐車場はありません。

発達障害のある人の地域での自立を考える

講演会

発達障害のある人の ライフステージからみた育ちと支援

講師 山梨県立こころの発達総合支援センター所長 本田 秀夫氏

平成25年12月
成城ホールにて

臨床のなかで、小さい時から支援を受けている人たちと、大きくなってから支援につながった人たちでは何か違うと考えるようになりまし

た。
我々精神科医から見ると、見逃されて後々手遅れになりやすいのは「目に見えない異常」です。一見すると他の人と同じようにふるまっているのに、他の人が考えないようなことを内面で考えている。目に見えないから分かりにくく気にならない。成人でひきこもっている発達障害の



人たちの子どもの時の特徴を分析すると、他の人たちに比べ行動の異常が目立ちにくかったそうです。小さいときに何の異常もないと言われていた方が、大人になった時に深刻な引きこもりになるリスクがあることを知っておくのは大事だと思います。

こだわり保存の法則

ここからは社会のなかで一番問題が深刻になりやすい、自閉症スペクトラムを中心にお話をしたいと思います。

自閉症スペクトラムの特徴は、臨機応変な対人関係が苦手で、微妙なコミュニケーションのずれを残し続けます。そしてこだわりとして、本能的に自分の関心ややり方、ペースの維持を最優先させたいということがあります。

こだわりをどう認識してどう取り扱うかは、実は支援者の一つの関門です。知っておくべきことの一つは【認知が発達するとこだわりも発達

定感を持つことです。

ソーシャルスキルとは、協調性ではなくルールを守ること、そして他の人に相談できる力です。自分の力の限界を超えたことを人に相談をする習慣が、小さい時から身につけていると、いろんなことに対応できます。つい「そのくらい自分ですらやらない」と突き放すとなかなか大人に相談しなくなる。人に相談をしながら自分のできることをしっかりやるのが大切です。

また、年齢が小さいうちから現実社会を生きっていく感覚を養っておきたい。何かを計画して実行し、試行錯誤してみても、上手くいかなかったら反省して、修正してやり直してみ

する】こと。かつて理解力が高まる【こだわりが減ると期待されたけどそんなこと全然ない。もう一つは【こだわり保存の法則】です。例えばある時期は道順にこだわっていたけど、しばらくするとそれがなくなり、別のこだわりが出てくるというように、こだわりにかけるエネルギーのトータルな量は一定だと考えています。規則正しい生活習慣とかいい趣味とか、生活にプラスになるこだわりに興味が向くように接すること【で、むしろ一般の人よりきちんとしてた社会人になったりする場合もあるわけ【です。

みこくアヒルの子

自閉症スペクトラムの人達は、育つペースや大人になった時の状態が違います。特有の発達に合わせた育て方を、早くから予測して育てていくことが必要で、その時に、統計学的なデータに基づく発達心理学をはき違えて、ノルマ化された一斉指導

で、達成する。こういうことをいろんなところで経験するのが大事です【ね。

そして、子どもに教えるべきポイント【はなにかを考えておく必要がある【ります。例えば、大人になったとき【適切な食事】「身の清潔保持】「金銭感覚と買い物】「通院と服薬】「他人との意思疎通および対人関係】「身のまわりの安全とか、危機の対応】「社会性、例えば銀行での金銭の出し入れや公共施設の利用が一人で可能か】といったことを一人暮らしでできるようになるか【という【ことです。

分かりやすい提示と合意で

自閉症スペクトラムの人は、人の言うことを聞くというカルチャーはなく、彼らにとって理にかなって【ればやる気になる。だから、彼らと合意が結べるかどうか【が大事になってきます。

こちらが命令するの【いけないし、一【方的な要求をこちらが追認する【のでは間違えた受容【という名の放任になる。一番のポイントは、呈示は大人からすること【です。子どもがよしやろう【という気持ちにならなければ、その合意はなりた【たない。今のタイミングでこ【ういう提案をしたら子どもがやる気になる【だろうと見抜いて、それを提案【することを習

本田秀夫氏プロフィール
東京大学医学部卒業。医学博士。横浜市総合リハビリテーションセンター勤務等を経て、2011年4月より現職。
著書『自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体』『アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育：小・中学生のいま 家庭と学校でできること』など。

の中でやると無理があるわけ【です。
みこくアヒルの子【という童話があります【が、変なアヒルの子【と思わず、将来白鳥になるなら初めから白鳥の育て方をすればよい【のです。同様に、自閉症スペクトラムの大人になると【思【って育てるべき【です。大人になった時に自閉症スペクトラムの特徴が残【っ【ても二次的な問題が少なければ、特有の社会参加への道はあるか【もしれない。そうすると二次的な問題を予防する方が重要だ【と思【う【ん【です。

意欲のエネルギーを蓄える

私の臨床的な印象【ですけれども、発達障害の人は物心がつくのは遅く、思春期【くらい【です。暗中模索で周りが見えていない世界で生きている時間が長い。でも物心がついてからは、真面目さが際立【っ【てきます。言【っ【つこと【とやる【ことが一貫し信頼できる。理念としての正義感、思いやりをもてる。

慣として持つ必要があるわけ【です。子どものニーズを大人が汲み、それをわかりやすく呈示して、子どもがそれに対して合意する。これを小さい時から丁寧【にやる【ことにより、結果として大人との信頼関係を身につける。そうして少しづつ社会ルールやマナーを教【え【ていき、大人になっ【たとき自分で自分を構造化出来るようになる【ことが一定の目標だ【と思【います。

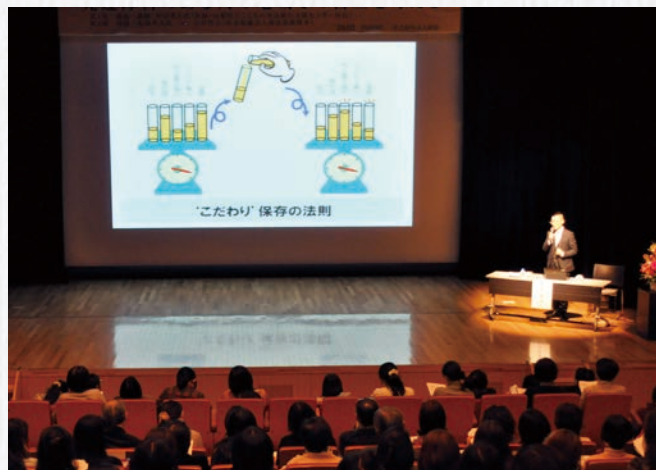
本人の話に耳を傾ける

最後に成人期の話【ですが、実は発達障害の人達はなかなか自分のことをわかってもらえない【と思【っている人が多【い【ん【です【ね。自分が良い【と思【っているものを「ああ、良い【ね」とか「なるほど」とい【う【ふう【に自分の話に耳を傾けてくれる人【にものすごく信頼を置きます。

大人の発達障害の人達の支援では、自分をよく知る、自分の問題を知り、誰かに相談をする【という構えを作る。ここ【にものすごく時間を掛けてください。そして支援者も、うまくことが運ばない【と思【ったら、やっぱり自分の問題が何かを整理してくれる相手を探して【いただければ【と思【います。【））

社会に出ていくときに一番大事な力は自律スキルとソーシャルスキル【です。自律とは、自分をよく知り、自分のできることはやる。自分のできないことはやらない。自分のでき【る【ことに自信を持つ。つまり自己肯

社会で必要な力をつける



紙面の都合により、抜粋してご紹介しました。